

千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第52週 (12/23-12/29) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		52週	51週	50週	49週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	17	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	27	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	注 意 報	千 葉 市					千葉県
			12/23-12/29	12/16-12/22	12/9-12/15	12/2-12/8	12/16-12/22	
			52週	51週	50週	49週	51週	
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	1 0.06	1 0.06	1 0.06	35 0.26	
	咽頭結膜熱	○	12 0.71	11 0.61	9 0.50	16 0.89	93 0.69	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		33 1.94	40 2.22	55 3.06	55 3.06	714 5.29	
	感染性胃腸炎		166 9.76	213 11.83	142 7.89	131 7.28	1,005 7.44	
	水痘		8 0.47	9 0.50	9 0.50	7 0.39	102 0.76	
	手足口病		8 0.47	3 0.17	20 1.11	21 1.17	78 0.58	
	伝染性紅斑		4 0.24	4 0.22	8 0.44	11 0.61	41 0.30	
	突発性発しん		9 0.53	2 0.11	3 0.17	11 0.61	36 0.27	
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	1 0.06	1 0.06	3 0.02	
	流行性耳下腺炎		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	8 0.06	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	◎★	603 22.33	540 19.29	321 11.46	184 6.57	5,323 24.76	
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	流行性角結膜炎		3 0.60	2 0.40	2 0.40	3 0.60	20 0.59	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	マイコプラズマ肺炎		2 2.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	9 1.00	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体等の検出	結核	女性	80歳代	病原体の分離・同定
結核	男性	60歳代	IGRA検査	カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌 感染症	男性	70歳代	細菌の分離・同定、 薬剤耐性の確認 及び起病菌の判定
結核	男性	80歳代	胸水ADA値の上昇				
結核	女性	20歳代	IGRA検査	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状等
結核	女性	30歳代	病原体の分離・同定	クロイツフェルト・ヤコブ病	女性	70歳代	脳波検査等

・第52週は、結核6件(167)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(21)、急性脳炎1件(15)、クロイツフェルト・ヤコブ病1件(3)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第52週のコメント

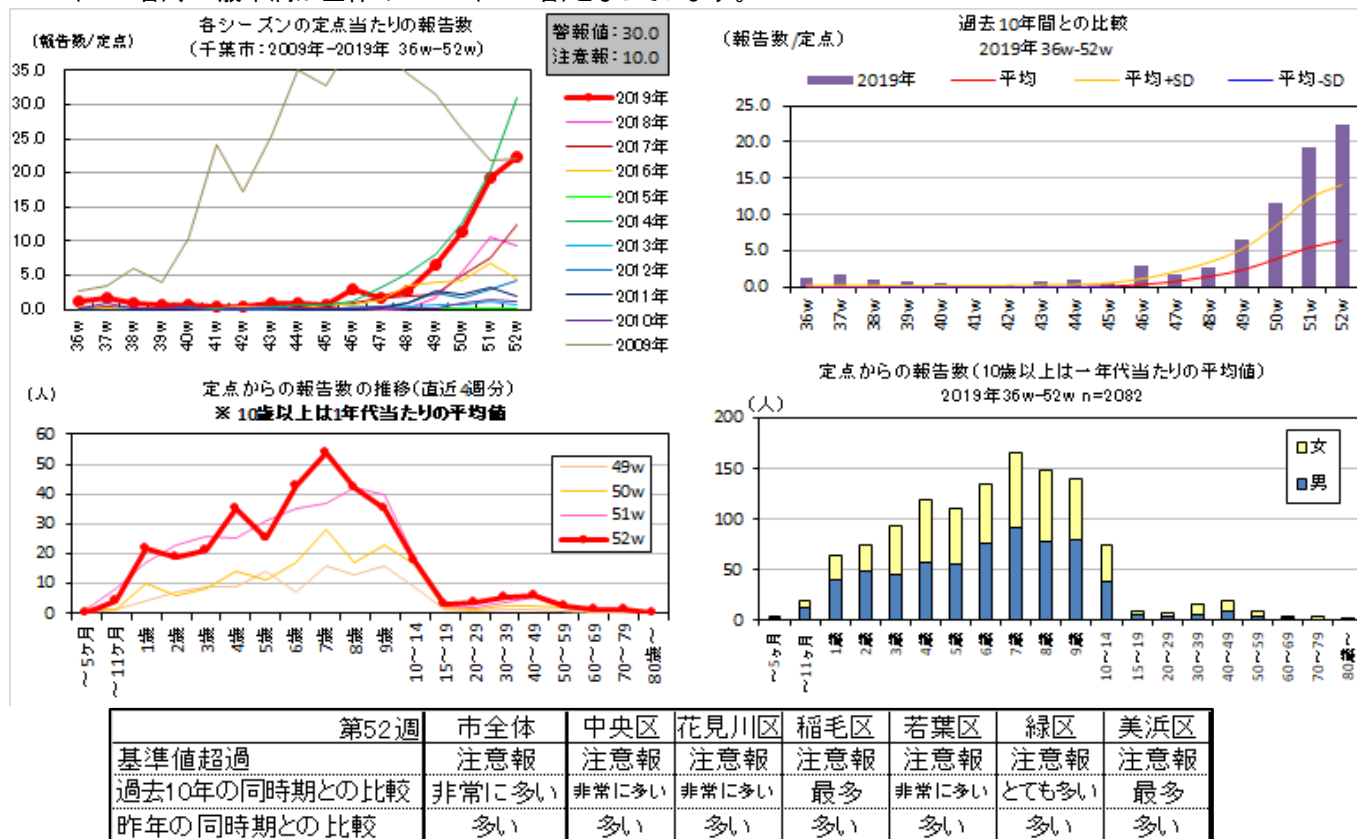
<咽頭結膜熱> 前週より更に増加し0.71となった。過去10年の同時期と比べると最多。

<インフルエンザ> 前週より増加し22.33となった。流行発生注意報基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると非常に多い。

■ トピック ■

<インフルエンザ>

全国レベルの第51週の定点当たりの報告数は21.22となり、流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除き最多のままとなっています。都道府県別では山口県、宮城県、埼玉県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は24.76で、全国レベルより多めとなっています。千葉市の第52週は前週より更に増加し22.33となりました。流行発生注意報基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると非常に多くなっています。区別の発生状況は全区で流行発生注意報基準値を上回っており、中央区(29.60/定点)で最多で、同区の40歳代で最も多く、10歳未満では7歳で最も多くの報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第52週までの累積報告数は2082件で、性別では男性が51.9%(1081名)、女性が48.1%(1001名)となっており、年齢階級別では7歳(8.0%:166名)、8歳(7.1%:148名)、9歳(6.7%:140名)の順で多く、20歳未満が全体の71.8%(1494名)、10歳未満が全体の51.5%(1073名)となっています。



<咽頭結膜炎>

全国レベルの第51週の定点当たりの報告数は0.77で、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では鹿児島県、福井県、鳥取県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.69で、全国レベルよりやや少なめとなっています。千葉市では第43週から例年の動向とは違って増加傾向にあり、第52週は前週から増加し0.71となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、花見川区(2.00/定点)で最多で、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第52週までの累積報告数は333件で、性別では男性が58.9%(196名)、女性が41.1%(137名)となっており、年齢階級別では1歳(22.2%:74名)、3歳(16.5%:55名)、2歳(14.7%:49名)の順で多くなっています。

